

保育界

2014

8

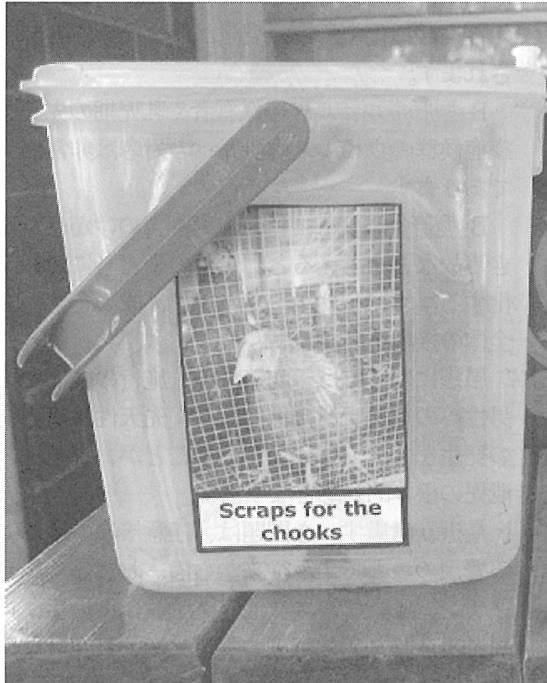


発行 日本保育協会

ものの循環を実感する環境づくり — KUラッシュカッターズ・ベイ幼稚園（オーストラリア）—

公益財団法人 日本生態系協会
教育研究センター長 田邊龍太

子どもの思いやる心、命やものを大切にする心を育むためには、自然の恵みを生かした保育環境づくりが重要です。ここでは、そうした環境づくりを積極的にすすめる海外の事例をご紹介します。



『ものの循環を生活の中で理解させたい』
『ゴミを減らす生活の仕方を身に付けさせたい』

このような思いから、この園ではものの循環を生活の中に取り入れています。

例えば、お昼やおやつに残った果物の皮などは捨てずにニワトリの餌にします。園児は、片付けの時に、自分で判断し、果物の皮などをニワトリの写真が貼った容器に入れます。その容器を担当の園児がニワトリ小屋に持っていきます。園児は、果物の皮などがやがておいしい卵になることを知っています。また、園庭で刈り取った草や落ち葉は、園庭の片隅に設けたコンポストに入れることになっています。このコンポストでできた堆肥は、園児と保育者が一緒に菜園にまきます。園児は、こうした作業を通じて、刈り取った草や落ち葉がやがておいしい野菜を育てることを学びます。

園児は、ゴミが減り、ものの循環が実感できる園での生活をとても楽しんでいます。

■東北地方の保育所の皆さまへ

環境省では、保育所や家庭などから出た野菜くずや食べ残しなどを使って、堆肥づくりを行い、ものの循環を積極的に園児に伝える工夫をしている実践例を募集しています。

資料請求は、(公財)日本生態系協会 (TEL 03-5951-0244) まで。